

## 再認判断と確信度評定の関連性における主観的新旧 反応率による分析

|       |                                                                                                         |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: ja<br>出版者: 静岡大学<br>公開日: 2016-06-15<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 日隈, 美代子<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.14945/00009593">https://doi.org/10.14945/00009593</a>                       |

専攻 情報科学 学籍番号 5504-5014 学生氏名 日隈 美代子

論文題目 再認判断と確信度評定の関連性における主観的新旧反応率による分析

本論文に掲載した研究は、判断の正確さと確信度評定の関連性について、主観的反応に基づいた分析手法の提案とその妥当性の検証を目的として行われた。

第1章では、再認判断と確信度評定の基盤となる理論について概説した。判断の正確さと確信度評定は、信号検出理論に当てはめると正の相関であると予測される。

第2章では、キャリブレーションの概念を説明するとともに、先行研究の知見をまとめた。種々の再認判断研究において、キャリブレーション曲線を用いて検討を行った場合、新項目の正確さと確信度評定に相関がみられなくなる現象が報告されている。

第3章では、従来の分析手法である名義的分類による分析の問題点について指摘するとともに、主観的反応にもとづいた分析の提案を行った。従来のキャリブレーション研究では、実験者が定義した名義的新旧項目に当てはめた分析しか行ってこなかった。そこで、再認判断と確信度評定の関連性について、主観的新旧反応に基づいた分析を行い、主観判断の正確さについて検討を行う必要があると提言した。

第4章では、主観的反応に基づく分析の妥当性について、意味情報と感覚情報を操作し、実験的検証を行った。3つの実験において、主観的新旧反応によるキャリブレーション曲線と名義的新旧項目によるキャリブレーション曲線と比較することにより、意味情報と感覚情報が再認の正確さと確信度評定の関係に与える影響を調べた。これらの実験において、学生は単語の意図学習を行い、その後、再認テストと自身の再認判断に対する確信度を評定した。また、意味情報のキャリブレーション曲線に対する影響を調べるため、新旧の項目の紛らわしさを変化させた。実験1（視覚）と実験2（聴覚）は、学習と再認の提示が、同一の感覚モダリティで行った。実験3は、聴覚提示による学習と、視覚提示による再認テストを行った。

第5章では、本研究での実験結果を踏まえ、主観的反応に基づく分析の妥当性と、主観的新旧判断のメカニズムに影響する要因について考察した。3つの実験の結果は、名義的反応の分析では、従来通りの結果を示した。これに対して、主観的新反応率の分析では、(1) 意味情報と感覚情報の両方が再認照合に利用できる場合、再認の正確さと再認判断の確信度が明確に対応すること、(2) 新旧項目の提示時での感覚情報の一致・不一致が、主観的新反応判断に対して非常に重要であることが示された。

以上より、本論文で提案した主観的新旧反応率による分析の妥当性が実証的に示し、さらに、旧反応と新反応の判断メカニズムが異なっていることを示した。

この論文での発見は、従来の名義的新旧項目での分析からは得られなかったことであり、記憶研究の認知科学に重要な基礎的知見を提供するとともに、目撃証言などに新しい手法を提案するものである。

以上より、博士（情報学）の学位を与えるのにふさわしいものと認定する。

